

～日系キューバ移民の記録映像～完成！

「そしてイスラの土となる」



日本人として生まれた誇り
日本人として生まれた哀しみ
遠か異郷の島＝イスラより 故郷に思いを馳せる
移民として生きた人々の物語...

そしてイスラの土となる Y CONVERTIRSE EN TIERRA DE LA ISLA.

日系キューバ移民の記録
Un documental sobre los inmigrantes japoneses en Cuba



2021 製作 80min.

製作 / IFCC 国際友好文化センター
監督 / 鈴木伊織

青年の島

ピノス島（松島）から「青年の島（フベントウ島）」に改称された島。キューバで最も日系人が住む。



Copyright © 2012 ZenTech

20世紀初頭...貧困からの脱却を目指し、日本からも多くの移民が海を渡りました。

この作品の主人公達...日系キューバ移民も、日本人としての矜持を守りながら現地の文化・生活様式に順応し、時には日本人であるが故の不幸に見舞われつつ、それでも力強く生き抜き、そして故郷から遠く離れた異国の地で、静かにその生涯を終えました。

決して多くを語ろうとはしなかった彼等の代弁者となり、その歩みを後世に伝えたい...そんな思いから、この作品は生まれました。

どうぞご覧下さい。鈴木伊織（2021年12月）

注文書

【頒布受付中】 ※注文書送付先 FAX03-3268-6079
DVD版「そしてイスラの土となる」

お名前 _____ 注文数 _____

ご住所（送付先） _____

TEL _____

FAX _____

製作者：日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）
鎌田篤則（IFCC）、日高邦夫

製作所：IFCC 国際友好文化センター

監督：鈴木伊織

2021年12月制作 全編 80分

頒布価・DVD ¥3000（送料込）

●本チラシ注文の場合 ¥2500（送料込）となります。

●ブルーレイ仕様希望も対応します。お問い合わせください。

【「制作協賛お願い」より】

——キューバに日本人が痕跡を残したのは仙台藩士・支倉常長で、伊達政宗公の命により 1613 年にローマに向かって出帆し、途中の 1614 年 7 月 23 日、キューバに立ち寄ったとされています。

近代になり、日本人農業移民がキューバに初めて入植したのは 1898 年と言われています。その後、幾多の苦難の歴史を経て、現在おおよそ 1200 人が暮らしています。

——歴史に翻弄されながらも、「革命」の地キューバに爪痕を残し懸命に生きてきた無名の日本人・日系人の生きざまを歴史に埋もれさせないため、「キューバの日系人たち」の映像記録を形にしたいとの思いで、皆様のご協賛、ご協力を呼び掛けることにしました。

——日本キューバ連帯委員会（略称 CUBAPON クバポン）がキューバの日系人が多く住む「青年の島」を訪問したのは 1994 年 12 月 4 日でした。この時、青年の島のカピタン・ラウトン名称農場 UBPC（農業共同体）、フィデル・カストロなどが収容されていたモデロ監獄跡などを視察しました。

モデロ監獄跡で、第二次世界大戦時アメリカ支配下にあったキューバでは日系人たちが「敵国人」として全土から集められ収容されていた歴史を垣間見ることになりました。それ以来、青年の島での日系人の方々とも付き合いがはじまり今日にいたっています。

（2021年7月 CUBAPON）

- ご注文は本「注文書」を送付下さい。
- 同時に、所定の費用を下記口座までお振込み下さい。
入金確認後、送付致します。

- 振込先
口座番号：中央労働金庫本店（281）
（普）1145118
口座名：IFCC 国際友好文化センター

IFCC

東京都新宿区山吹町333
社ビル405

TEL03-3268-4387

FAX03-3268-6079

Email:jvccpf@mail.plala.or.jp

からも注文可です。